

令和 2 年度教育課程研究集会

〈中学校・美術〉

奈良県教育委員会事務局 学校教育課 義務教育係 湊 丈司

内容及び目的



■内容

**新学習指導要領における学習評価
の概要と具体例について**

■目的

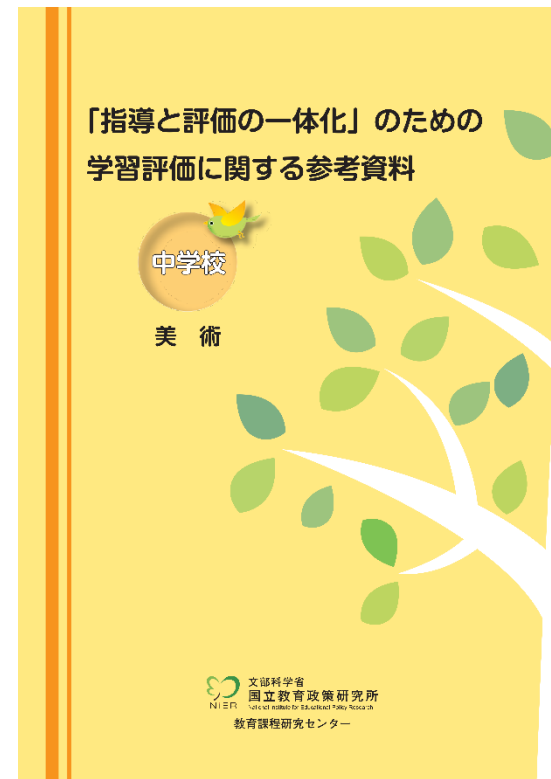
**新学習指導要領の円滑な実施に向
けた学習評価についての理解を深
める。**

資料について

中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 美術編



資料について



□ **学習評価の在り方ハンドブック小・中学校編**

□ **「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料**

資料について

- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（**答申**）」
平成28年12月21日 中央教育審議会
- 「児童生徒の学習評価の在り方について（**報告**）」
平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
- 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（**通知**）」
平成31年3月29日 初等中等教育局長通知

学習評価の改善の基本的な方向性と考え方

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

※ 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。
「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する子供の視点に立ち目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理

学びに向かう力, 人間性等

どのように社会・世界と関わり,
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」
を総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力, 判断力, 表現力等

学習指導要領と評価の観点との関連

領域等	指導事項	評価の観点
A 表現	(1) 発想や構想に関する資質・能力	「思考・判断・表現」
	(2) 技能に関する資質・能力	「知識・技能」 (技能)
B 鑑賞	(1) 鑑賞に関する資質・能力	「思考・判断・表現」
〔共通事項〕	(1) 造形的な視点を豊かにするための知識	「知識・技能」 (知識)

※ 「学びに向かう力、人間性等」

「A 表現」、「B 鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で、一体的、総合的に育成

中学校美術科の内容のまとめ

感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現

「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕

目的や機能などを考えた表現

「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕

作品や美術文化などの鑑賞

「B鑑賞」、〔共通事項〕

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

学習指導要領に示された教科及び学年の内容を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解したうえで

① 美術科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

② 美術科における【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

中学校美術科の評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none">・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】「知識・技能」（知識）

「参考資料」P.30-P.33 第2編「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

<例1 第1学年の「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕>

■「知識」の評価：第1学年の評価の観点の趣旨

「対象や事象を捉える造形的な視点について理解している」

〔共通事項〕(1)

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

評価規準

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】 「知識・技能」 （知識）

内容の取扱いと指導上の配慮事項

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 〔共通事項〕の指導に当たっては、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように、以下の内容について配慮すること。
 - ア 〔共通事項〕のアの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
 - (ア) 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。
 - (イ) 材料の性質や質感を捉えること。
 - (ウ) 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。
 - (エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。
 - (オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。
 - イ 〔共通事項〕のイの指導に当たっては、全体のイメージや作風などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
 - (ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。
 - (イ) 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること。

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】 「知識・技能」 （知識）

ここでの知識は単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではないことを示している。そのため、「知識」の評価を行う際には、〔共通事項〕の各指導事項に示されている「理解すること」とは、生徒一人一人の造形的な視点を豊かにするために、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果及び全体のイメージや作風などで捉えるということを踏まえ、**実感的に理解している状況**を見取るようにすることが大切である。

【参考資料】

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】 「知識・技能」 （技能）

第1学年の評価の観点の趣旨

「意図に応じて表現方法を工夫して表している」

「A表現」(2)の内容

- (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと
- (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと

評価規準の作成

- (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している
- (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】 「思考・判断・表現」

第1学年の評価の観点の趣旨

「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている」

例：「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」

「A表現」(1)アの内容

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を**練ること**

評価規準の作成

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を**練っている**

発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力として「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考える」ことなどについて留意しながら評価

【参考資料】

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】 「主体的に学習に取り組む態度」

第1学年の評価の観点の趣旨

「美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている」

題材において設定した「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で楽しく身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価

よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善し、粘り強く取り組む態度などに着目する事が大切

【参考資料】

「内容のまとめりごとの評価規準」の作成例

【観点ごとのポイント】 「主体的に学習に取り組む態度」

第1学年

「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」

「内容のまとめり」

第1学年の評価の観点及びその趣旨と「A表現」の「内容のまとめり」に応じて評価規準の作成が可能

評価の観点及びその趣旨に示されている「創造活動の喜び」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が相互に関連する中で味わうものであることに留意

「内容のまとめりごとの評価規準」 (例)

美術科の「2 内容」(上段) 及び「内容のまとめりごとの評価規準」(例) (下段)

「知識及び技能」	「思考力, 判断力, 表現力等」	「学びに向かう力, 人間性等」
<p>〔共通事項〕(1)</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。</p> <p>イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>「A表現」(2) ア</p> <p>(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。</p> <p>(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。</p>	<p>「A表現」(1)ア</p> <p>(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p>	<p>※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力, 判断力, 表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にする。</p>

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・ 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 ・ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 <p>※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。</p>

指導と評価の一体化を図る

学習評価の在り方

評価の基本的な方向性

||

生徒の学習改善・教師の指導改善

適切な「題材の評価規準」
の設定と効果的な活用

指導と評価の一体化を図る

学習評価の在り方

表現活動と鑑賞活動の傾向を踏まえた評価計画

表現活動

「知識及び技能」である〔共通事項〕が示す造形的な視点についての理解や創造的に表す技能と、「思考力、判断力、表現力等」の発想や構想に関する資質・能力は、制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れる。

鑑賞活動

表現活動のように作品となって表出されるものではないため、基本的には〔共通事項〕が示す造形的な視点についての理解や「思考力、判断力、表現力等」の鑑賞に関する資質・能力は、ワークシートの記述等が中心となる。

題材の評価規準の作成

「内容のまとまりごとの評価規準」(例)
を基に「題材の評価規準」を作成する方法

学習指導要領と題材との整合性を図ることができる利点がある。

事例1 「花の命を感じて」題材の評価規準

「事例1：花の命を感じて」の題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準(例)」※

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や道具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※事例1「花の命を感じて」(第1学年「A表現」(1)ア(イ)(2)ア(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、「共通事項」(1)アイ)と関連する各「内容のまとまりごとの評価規準(例)」から整理したもの



(2)「花の命を感じて」の題材の評価規準(第2編を参考に作成)

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>鑑 花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態度 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態度 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

【参考資料】

題材の評価規準の作成

事例1 「花の命を感じて」の「知識・技能」の知識に関する題材の評価規準の作成

第1学年の「感じ取ったことや考えたことなどに基づいた表現」の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」に示された「知識・技能」（知識）の評価規準

- ・ 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。
- ・ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。



事例1 「花の命を感じて」における「知識・技能」（知識）の題材の評価規準

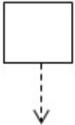
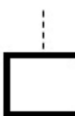

知 形や色彩などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などを基に，美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。

※下線部，下線部は変更箇所

【参考資料】

学習評価の効果的な活用

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は、以下の通りである。

-  は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。
-  は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。
-  は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。
- **ゴシック体**は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。
- **【 】** は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。

【参考資料】

学習評価の効果的な活用

3. 鑑賞（1時間）

- 生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。
- ・お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。
- ・第一次とは異なる「花」をテーマにした作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。

知



鑑



態鑑



知 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】

鑑 態鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることなどができているかどうかなどと、取り組む態度とを見取り、できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】

生徒の学習改善や、教師の指導改善につなげるために用いる「題材の評価規準」

【参考資料】

学習評価の効果的な活用

			<div style="text-align: center;"> 態鑑 </div>	<p>態鑑 楽しく作品を鑑賞し、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【活動の様子】</p>
<p><授業外：題材が終了後></p>	<div style="text-align: center;"> 知・技 </div>	<div style="text-align: center;"> 鑑 </div>	<div style="text-align: center;"> 発 </div>	<p>知・技 完成作品やワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品, アイデアスケッチ, ワークシート】</p> <p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。【完成作品, アイデアスケッチ, ワークシート】</p>

題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」

【参考資料】

題材の評価規準作成及び評価のポイント

■「知識・技能」（知識）

表現及び鑑賞の活動を通して、「造形的な視点を豊かにするための知識」

- ・「形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解すること」
- ・「造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること」

ここでの知識は、表現や鑑賞の場面において、学んだ知識を生かして、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようになるなど、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが求められる。

題材の評価規準作成及び評価のポイント

■ 「知識・技能」 （技能）

造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法などを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価

技能は、制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって表れるものである。そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能の高まりを読み取ることが大切である。

【参考資料】

題材の評価規準作成及び評価のポイント

■ 「思考・判断・表現」 （発想・構想）

造形的な見方・考え方を働かせて、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどとの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価

発想や構想は、制作が進む中で徐々に具体的な形になり、更にそこから深まることが多い。そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが大切である。

【参考資料】

題材の評価規準作成及び評価のポイント

■「思考・判断・表現」（鑑賞）

造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価

題材によっては、鑑賞的な活動が位置付けられていても、それが発想や構想に関する学習を深めるための活動であったり、主体的に学習に取り組む態度を高めるための活動であったりすることも考えられるため、活動のねらいを確認するなど評価規準の設定には留意する必要がある。

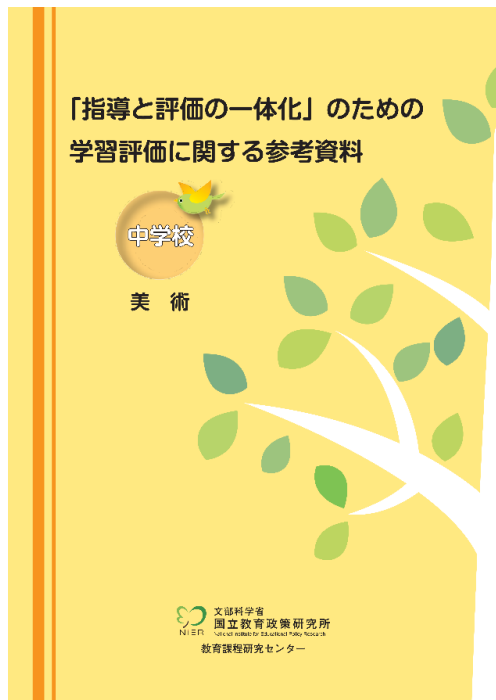
題材の評価規準作成及び評価のポイント

■ 「主体的に学習に取り組む態度」

生徒が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度を評価

- ・ 表現活動においては、机間指導等の際に、試行錯誤を繰り返して粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して構想や技能を、工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切
- ・ 鑑賞活動においては、作品などを鑑賞し、造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度を高めることが大切

おわりに



事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで
「花の命を感じて」（第1学年）

事例2 キーワード 「思考・判断・表現」の評価
「私たちの町を案内しよう
～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」（第3学年）

事例3 キーワード 「知識」を活用した鑑賞の評価
「発見！日本の美
～日本美術のよさや特徴について語り合おう～」（第3学年）

事例4 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「視点を感じて ～写そう 私の○○な情景～」（第2学年）

【参考資料】

令和 2 年度教育課程研究集会

＜中学校・美術＞

奈良県教育委員会事務局学校教育課義務教育係 湊 丈司